

## 相模湾地震災害状況放送劇シナリオ 4

避難場所 鵜沼中学校体育館 震災当日 地震発生から五時間後

時間 二十二時十五分

気温 三度 晴

課題 避難所にはわずかな水と、乾パンなどの非常用食料しかない。

状況設定

近所の寿司屋が、傷まない内にと寿司を持ってきた、地域の商店や事業所にも災害時に役立つ物があるかもしれないのでアイデアを出し合う。

### 【ストーリー】

登場人物

藤沢市子（ふじさわ いちこ）高校生・愛称チーちゃん

増田 町内会役員で食料物資班

佐藤 藤沢市職員（避難所担当）

大将 寿司の店主

避難者

男 A コンビニの店長

女 B 市民団体に活動している主婦

女 C 市民団体の代表をしている主婦

【市子のモノローグ】

最近あった新潟や東北の大地震の時テレビを見て被災地の人は「大変だなあー」って他人事みたいに思ってたけど、まさか自分の住んでる町がこんな災害に遭うなんて信じられない。何度か強い余震があったけど、今は収まっている。地震発生からもう五時間近くたっている。少し落ち着いてきたらお腹がすいて来ちゃった。考えてみたら、夕食前だったのよね、地震。ちよつと前に、防災倉庫から持ってきた非常用食料の乾パンとペットボトルの水をすこしづつ分け合って食べただけなもの。

「寿司の大将」の店主が勢いよく入ってくる。

大将

責任者の人いる！俺、寿司の大将だけど、停電で店の冷蔵庫が停まっちゃったんだ、このままじゃ寿司ネタが傷んじゃまう、捨ててしまいうくらいなら差入しようと思つてよ。

食料班増田

そいつはありがたい、ここの人数分あるのか。

大将

そんなにあるわきゃねえよ、ストックとしては六十人分くらいだ。

避難者女C

寿司のネタって生ものばかりでしょ。時間がたっているけど、だいじょうぶ？。

大将

真冬でこの寒さだ、傷む心配はない。

避難者女B

お刺身だって、この気温なら大丈夫よ。

食料班増田

六十人分か、少ないな、配分方法を考えなくちゃ……。他にご飯物はないのかい。

大将

すし飯は六十人分しかないが、米なら五十から六十キロあるよ。

避難者男A

暖かい物が食べたいな、焼きおにぎりなんか出来ませんか。

大将

店の状態からして、火はおこせないね。

食料班増田

できればこの避難所内で握ってほしいんだがね。

大将

いいよ、ネタとすし飯を持ってきて、調理はここでやるよ。

行政職員佐藤

食中毒が心配ですね、でも、親方が大丈夫って言うんならお願いしましょう。それから、後でお金を取るということは、ないようにしてほしい。

大将

大丈夫だって、金は請求しないよ。

避難者男A

暖かい物がいいな、雑炊なんかほしいな。

大将

雑炊を希望するなら、卓上コンロなんか使ってできるよ、期

待してもらっていいと思うよ。

行政職員佐藤 避難所内で火を使うのは止めてもらいたいです。

避難者女B 校庭で焚き火をしているから、そこで煮たら。

避難者女C 寿司屋さんだけで避難所を補うのは無理よ、他の商店からも支援してもらえないかしら。

避難者女B それはいいわね。

避難者女C どうです、リーダー。商店の人も避難してきてるんでしょ、聞いてみてください、お願いしますよ。

大将 隣の八百屋の親父がいたから、果物や野菜をもらえるよう話してみよう。

避難者男A 商店街にも協力してもらって、衣料品なども提供してもらいま

しょう。私の所は、コンビニを経営しているので、食べ物や飲み物それに菓など、店にあるものを提供しますよ。皆さん、取りに行くのを手伝って下さい。

避難者女B 私たちも家に帰って衣類や食料を持ってきましょうよ。みんなで助け合いましょう。私は自宅にあるペットボトルの水を提供します、力のある人の協力をお願いします。

食料班増田 そういうことなら、私の所にも水のストックがあるから提供する。この地域には商店街が二箇所あるので、いろんな種類の物を提供してもらえるといいな。

避難者女C それと、これは行政にお願いすることかもしれないけど、非常時に自販機を開けて中の物を出せるとか、商店の物を買い上げるといシステムを作って欲しいわ。

行政職員佐藤 そういう自動販売機があるとは聞いていますが・・・？商店から買い上げるほど市の予算はありませんよ。でも、要望は上に伝えておきます。

食料班増田 差し入れの分配方法を考えなくちゃ。子供・老人を優先するか、不公平にならないようにルールを作らないと。

避難者女C じゃんけんや抽選をしたら。

大将 俺は、行政がよく言うような皆さん公平、平等につてやつじゃなく。子供・老人それに弱者を優先する。

避難者男A まず、年寄りに子供、つぎに女性が優先かな。それに、赤ん坊や・・・。

避難者女C 赤ん坊は寿司なんてたべませんよ！誰だってお腹がすいているんだから公平にしないと。食べ物への恨みは恐ろしいわよ。

避難者女B ねえリーダー、行政の人とよく相談してリーダーシップを発揮

して下さいよ。

食料班増田

リーダーシップを取ってくれと言いますがね、食い物の事じゃ、もめるのがわりきってるんだ。だから、私は初めから食料班のリーダーなんてやりたくなかったんだよ。

行政職員佐藤

まあまあ、そういわずにお互いに来ることは協力しあっているかなければ、ね。(仲を取りなして) 親方ご好意ありがとうございます。寿司の量には限りがあるので、避難所の皆さんに喜んでもらえるように配りたいです。リーダーの増田さん、避難所の人達には、明日になれば何か食料物資が届くと伝えてください。それと、食べ物については安全性と言うこともありますので・・・、なにしろ震災から五時間以上たっているので、備蓄の非常食以外の食べ物については責任が持てません、自己判断でやって下さい。わかってるよ。寿司屋としては早く食べて欲しいし、炊き出しも早くしたい。手伝えるものは来てくれ。

大将

行政職員佐藤

ああ、それから差し入れは善意の行為という事で、後から市のほうに請求しないでください、お願いしますよ。

大将

行政職員佐藤

親方のところだけじゃなくて・・・。  
心配性だねあんた。他の店にも言っておくよ、無料で提供しろって。

行政職員佐藤

そのところはよろしく。

大将

(笑う) さあ、早いとこやるか。

避難者男A

コンビニも開けるからみんな手伝ってください。

避難者女C

クーラーボックスが必要でしょ、家を使ってください。

大将

店にも何個かあるからいいよ。ああ、そうだ。善意の提供者は記録して置いてくれよ、それくらいはしてくれるだろ。

避難者男A

提供した恩は忘れないで、この後も店に来てほしいけど、食べたら忘れちゃうんだろね。

がやがや話しながら施設を出てゆく

### 【市子モノログ】

「お互いに助け合いの精神を持って行動しよう」っていったって、これだけ大勢の人が集まると、まだまだいろんなことが起こるんだろうな、他の避難所はどうなんだろう、もうちょっと情報があればいいんだけど。きっと明日の朝

には、炊き出しって言うのかしら。被災地でよくやっているような食料配給があると思うけど・・・。空腹だとしてもイライラするのよね、少しでも何か食べ物が配られるとホッとする。早く朝になるといいな。

落ち着いてきた避難所内では、寝ている人もいる。発電機のエンジン音がしている。

ストーリー4 終わり

地域発防災ラジオドラマ  
現状とドラマ（フィクション）との相違点

- 二〇〇九年現在、藤沢市には市内の公立学校等を中心に八十一か所の施設が避難所として指定されています。一定の規模以上の災害が発生すると各避難所にはあらかじめ担当が決められた市職員（複数名）が駆けつけ、避難所開設の準備をはじめます。このドラマでは停電して暗い中、あえて担当者が駆けつけられない（何らかの事情が発生した）と想定して、避難所担当職員がいない中で住民だけでどうするかを協議するシーンを作りました。
- 市内の公立学校については、おおむね耐震性が確保されている状況にあります。鶴沼中学校も耐震補強が完了してはいますが、いくら耐震補強があっても、施設に入る前には安全性を確認する何らかの行動があり、かつそこには地域の協働関係が象徴されると考えて、あえて議論されるシーンを作りました。なお、藤沢市の避難施設マニュアルには簡便な安全性チェックシートも用意されています。実際のシナリオワークショップでは、建物に少しでも不安があるときは、校庭で待機するほうがよいという意見が出たグループもありました。
- ドラマではわずかなシーンですが、ペットと離れられないと主張する住民と、避難所の関係者のやり取りが描かれています。ほとんどの避難所運営マニュアルではペットの持ち込みは原則禁止となっています。アレルギーがある人や動物が苦手な人がいる現状にかんがみて、避難所内にペットを自由に持ち

込める状況にするのは難しいと思いますが、地域で何らかの工夫が出来ないか、事前に検討しておくことは可能だと思います。柏崎市ではペットと離れたくないという住民のために、避難所となった学校の駐車場に停めた車の中に入れたという事例もあるようです。藤沢市では、ペットを専門に扱う事業者との協定を結んでいるところもあります。

● ドラマでは避難所運営組織の各役割が決まっているので、組織は順調に動いている形に描かれています。実際にはこの舞台となった鵜沼中学校地区の避難所運営体制の組織化は、まだ緒に付いたばかりでドラマ制作時点では個人々に役割があらかじめ決められているわけではありませんでした。鵜沼中学校地区防災連絡協議会では平成二十二年二月に避難所設営訓練を実施し、実際の場面になったら現場でどのような課題が生じるかを、実際に体を動かして検証・確認することが決定しています。

● 災害時の公的支援を効率的に行うためにも、避難所の実情をその都度、市の対策本部に送り、状況認識を共有化しておくことは重要です。誰がどこにいるかがわかれば、被災地外からの連絡や安否確認の際には大変都合がよいといえます。しかし最近の個人情報が見えのトラブルにかんがみて、住民の中には本当のことを書きたがらない人が出てくるかもしれないと考えてこの課題を設定しました。町内会・自治会で名簿が作成されていない（作成が難しい）地域が増えていくようです。藤沢市の避難施設運営マニュアルには書式が定められていますが、そこに項目があるからすべて埋めると考えずに、それぞれの項目がなぜ必要かを住民自身で考え、判断することが重要であると考えられます。

● 鵜沼中学校地区ではいわゆる戸建て住宅からなる町内会・自治会だけではなく、一部のマンションの管理組合からなる自治組織が参加した形で防災連絡協議会を構成しています。防災連絡協議会に加入している自治会、管理組合の関係者間の合意形成には問題がないと思われませんが、地域のすべての共同住宅の居住者が参加しているわけではありません。したがってここで議論されたようにマンションによってはほとんど交流がないところも存在しています。

● 藤沢市では地域内住民を主体として、災害時のボランティア活動を支援するための組織藤沢災害救援ボランティアネットワーク（FSV）が活動しています。ここで取り上げたような課題の解決のためにも地元で活動するボランティアコーディネーターとしての役割が期待されます。